

# ほんがいっぱい



## よんでみよう!

### 3・4年生のための本

#### ①『やかまし村の子どもたち』

アストリッド・リンドグレン / 作 大塚勇三 / 訳 岩波書店 《Fリ》

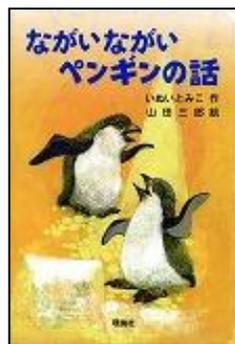
スウェーデンのやかまし村には家が3けんしかありません。でも、男の子と女の子が3人ずつ、ぜんぶで6人の子どもたちはちっともさびしくななありません。学校は遠いけれど6人で遊びながら通います。夏休みには、ほし草おき場でねたり、あそび小屋を作ったりして、毎日楽しくくらししています。



#### ②『ながいながいペンギンの話』

いぬいとみこ / 作 山田三郎 / 絵 理論社 《Fイ》

南極にすむペンギンのルルとキキはふたごの兄弟です。ある日、おなかがすいたルルは、お父さんとお母さんがなかなか帰ってこないで、弟のキキが止めるのもきかずにひとりでたべものをさがしにでかけました。すると、おそろしいトウゾクカモメが、ルルをたべようとすぐ後ろにせまってきて…。



ところざわりつとところざわとしょかん  
所沢市立所沢図書館 2015年

#### ③『げんきなぬいぐるみ人形ガルドラ』

モドウィナ・セジウィック / さく 多賀京子 / やく 大社玲子 / え 福音館書店 《Fセ》

てづくり人形のガルドラは、もちぬしのメリーベルのうばぐるまにのって、おさんぽに行くことになりました。でもメリーベルは、うばぐるまを小川におきわすれたまま、ともだちのところにあそびにいきます。うばぐるまがたおれ、小川にながされてしまったガルドラ。どうなるのでしょうか？



#### ④『みしのたくかにと』

まつおかきょうこ / さく 大社玲子 / え 松岡享子 / 作 大社玲子 / 絵 小ぐま社 《Fマ》

ふとつちよおばさんが、庭に種をまいて、札を立てました。でも、そこを通りかかった王子さまは、札をはんたいから読んでしまいました。ある日、かんしゃくをおこした王子さまが、その札にかいてあるものいはいは食べないと言いだしたので、大臣たちはわけがわからずおおあわて！



#### ⑤『きのうの夜、おとうさんがおそく帰った、そのわけは…』

いちかわのぶこ / さく はたこうしろう / え ひさかたチャイルド 《Fイ》

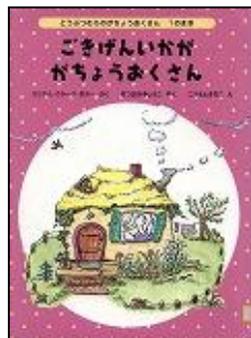
あつくんのおとうさんは、なかなか帰ってこない日があります。どこでなにをしているとおもう？じつはね…。きのうの夜は、あなをほっていたんだよ。そう、もぐらやありんこ、みみずといっしょに。いやほんとの話、おとうさんは、あなをほらせたなら、だれにもまけない。それで、どこまでほったとおもう？それはね…。



## ⑥『ごきげんいかががちょうおくさん』

ミリアム・クラーク・ポター／さく まつおかきょうこ／やく こうもとさちこ／え 福音館書店 《AFホ》

どうぶつむらのがちょうおくさんはあわてんぼう。ある朝、なくなったあまぐつをさがして、れいぞうこのなかをしらべたり、はたけの土もほってみましたがみつきりません。あまぐつはいったいどこへ？ ゆかいな続編『おっとあぶないがちょうおくさん』もあります。



## ⑦『しもばしら』

ほそじまさよ／しゃしん いじちえいしん／ぶん いわさきしよてん 岩崎書店 《45》

しもばしらって見たことある？ さむいあさ、じめんのうえのこおりのつぶが、どんどん大きくなって、によきによきのびてしもばしらになるんだよ。どこにいけばしもばしらをみつけれられるかな。はやくおきないと、とけてなくなっちゃうよ。さあ、しもばしらをさがしにいこう。



## ⑧『ミーアキャットの家族』

うちやまあきら 内山 晟／しゃしん えぐちえり 江口絵理／ぶん そうえん社 《48》

からからにかわいたカラハリ砂漠には、ミーアキャットが家族でくらしている。どの家族もリーダーはお母さん。えささがしの見はり役や子守りはみんなで協力しあう。家族にはきびしい“おきて”もある。けれども、砂漠で生きるためには何より家族が大事。たくましく生きるミーアキャットのくらしをのぞいてみよう。



## ⑨『ものぐさトミー』

ペーン・デュボア／文・絵 松岡享子／訳 岩波書店 《AEデ》

トミー・ナマケンボは電気じかけの家に住んでいて、きがえも食事もぜんぶ機械におまかせ。ところがある夜、あらしで電気がとまってしまいました。機械が動かないのでトミーはねむり続けていましたが、7日後、機械が動き出すと大変なことに…。



## ⑩『日本のむかしばなし』

瀬田貞二／文 瀬川康男 梶山俊夫／絵 のら書店 《M》

「はたけの草をとってくれるものがあれば、むすめをよめにやるが…」とじいさんがつぶやくと…。「さるむこいり」他12編

## ⑪『王さまと九人のきょうだい』

きみしまひさこ やく あかばすえきち え 君島久子／訳 赤羽末吉／絵 岩波書店 《M》

むかし中国に年よりのふうふが住んでいました。白いかみの老人にもらった9つぶの薬をのむと、9人の子がうまれて…。

## ⑫『かもさんおとおり』

ロバート・マックロスキー／ぶんとえ 《EM》 わたなべしげお／やく 福音館書店

かものマラードおくさんと8わのこがもたちは、一列にならんで公園へ。ところが、車がおおくて道路がわたれず、おおさわぎに…。

## ⑬『こぎつねコンとこだぬきポン』

まつのみまきこ ぶん ふたまたえいごろう が 松野正子／文 二俣英五郎／画 童心社 《Eフ》

こぎつねコンとこだぬきポンはとも友だちになりたいのに、父さんと母さんは大はんたい。きつねとたぬきはなかが悪いんだって。

## ⑭『こがねぐも』

かいのぶえ やぎぬまたけお かんしゅう 甲斐信枝／さく 八木沼健夫／監修 福音館書店 《48》

くものすをのぞいてごらん。よこにはった糸は、ねばりけがあるので、えものがかかる。だから、くもは、ねばりけのないたて糸を通って、えものに近づくんだよ。

## ⑮『ことばのこばこ』

わだまこと 和田 誠／さく・え 瑞雲舎 《チャ》

「さんたくろーすとなかいいんだよ」この文にかくれている動物を見つけれられるかな？ しりとり、早口ことばなど、ことばあそびがいっぱいの本。